

手鉾（比礼旗付き）7本



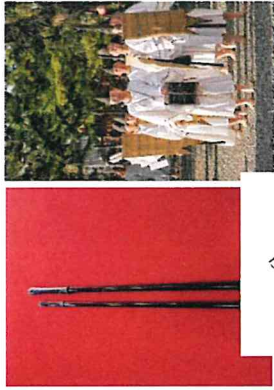
## 手鉾の新調

江戸時代は8基（本）あった飾鉾は先頭の獅子飾鉾のみとなり残りの7本は手鉾となった。その7本の手鉾（比礼旗付）も現在は4本となっている。

飾鉾を江戸時代のように再現するのは、費用や人手の面から現実的にはかなり難しい為、飾鉾の歴史を伝える為に本数だけでも本来の8本（獅子飾鉾と手鉾7本）を再現する目的で、7本の手鉾（比礼旗付）を揃いで新調する。

現在使用している手鉾と同じものを3本新調するのは難しく現在他の祭礼などでも広く使用されている見本のような手鉾を7本新調する。

現状は4本のみ



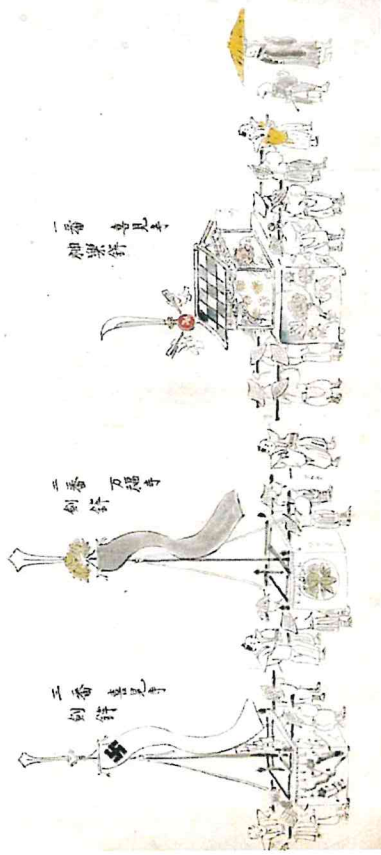
手鉾見本  
長さ180cm



江戸時代、飾鉾は先頭の獅子飾鉾より行列の前方に6基（本）後方に2基（本）あり、これらは全て吉田藩内の寺院より出されていた。明治初年に神仏分離の影響でそれらは止められ、先頭の獅子飾鉾のみ氏子町である札木町が引き継ぎ、現在まで続く。飾鉾の描かれ方は、文献により様々であるが、現在の手鉾4本は威儀物の一つのように認識されており、飾鉾の歴史は殆ど知られていない。

7本の手鉾（比礼旗付）を新調し、飾鉾の存在や歴史を後世に伝えていく機会としたい。

※札木町の獅子飾鉾も名称のみ「飾鉾」となっているが、実際には飾鉾は付いていない。



吉田天王社祭礼神輿行列図に描かれた獅子飾鉾と剣鉾



現在の獅子飾鉾

札木町